

2017年度の病院運営について

院長 いがわ みきお
井川 幹夫

地域の医療機関の皆様には平素より大変お世話になっております。島根大学の第3期中期目標期間の2017年度計画のうち、当院の医療に関する事項を中心に概略を説明いたします。

心血管疾患、脳血管疾患に対する高度医療の実施が重点目標で、7月に竣工予定の高度外傷センター棟内のハイブリッド手術室で実施する大動脈弁狭窄症に対する経カテーテル大動脈弁留置術（TAVI）実施体制の整備を行います。脳梗塞に対する迅速な治療を可能とする脳卒中センターを設置し、関連診療科がチームを組み、24時間体制で対応します。救急医療については、2016年度当初に設置した高度外傷センターを核として、12-13名の医師により強化した救命救急センター機能により県全域を対象とし、内因性疾患対応も充実した幅広い救急医療を実施します。7月には新設のハイブリッド手術室、通常手術室2室が稼働可能となり、重症外傷患者に対する診療レベルを一段と向上させます。がんに対しては、都道府県がん診療連携拠点病院として、手術、化学療法および放射線治療の精度を上げ、緩和ケアに丁寧に取り組み、更に希少がん、小児がん対策、がん患者さんの就労支援を含む包括的ながん医療を推進します。新たに先端がん治療センターを設置し、診療科横断的にがんに対する Precision Medicine を開始して県内のがん医療水準の劇的な向上を目指します。他には、拡充した周産期医療部門をフル稼働させ、周産期母子医療センターとしての役割を果たします。難病総合治療センターによる難病に対する包括的な診療、アレルギーセンターが多様なアレルギー疾患に対する組織横断的な治療を行います。2016年に設置した再生医療センターの本格稼働により閉鎖型無菌細胞調整システム（CPWS）等を活用した高品質の特定細胞加工物の製造（高純度間葉系幹細胞 MSC）、急性 DVHD 等、先天性骨・軟骨形成不全等に対する MSC 投与、膝関節軟骨損傷に対するコラーゲンゲル包埋培養軟骨細胞移植を実施します。

当院は特定機能病院の役割を果たすとともに、患者さんのアメニティーにも十分配慮した病院運営を行います。今年度も地域の医療機関の皆様にはご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



脳卒中センター設置にむけて

脳神経外科 教授 あきやま やすひこ
秋山 恭彦
神経内科 教授 やまぐち しゅうへい
山口 修平

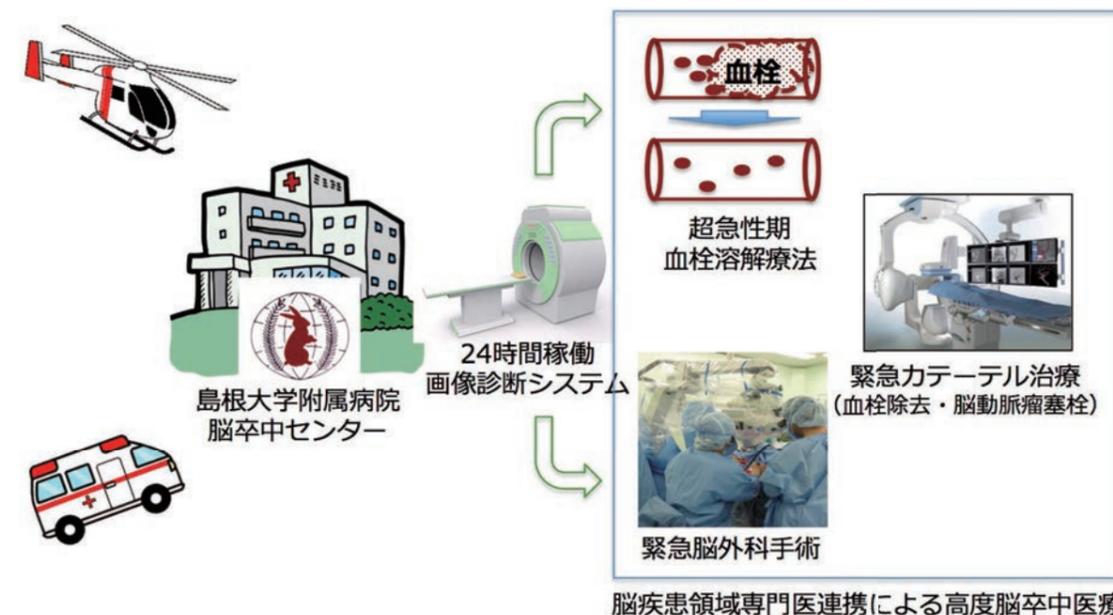
脳卒中（脳梗塞、脳出血、くも膜下出血）は、日本人の死亡原因第4位の疾患ですが、臓器別の死亡原因第1位、重度障害の原因疾患第1位で、現在の高齢化社会にあつては、医学的・社会的に非常に重要な疾患となっています。

当院では現在、『脳卒中センター（ストロークセンター）』の設置を計画しています。

脳卒中は重篤な疾患ですが、最新の画像診断と、遺伝子組換え組織型プラスミノゲン・アクチベータ（rt-PA）による薬物血栓溶解療法、脳神経外科手術、更にはここ数年で急速な進歩を遂げている脳神経血管内治療を、効率的に駆使することができれば、『脳卒中は“崖っぷちから救える疾患”』となってきました。

高度脳卒中医療を行うためには、最新の医療設備と脳卒中関連領域の専門医チームによる連携診療体制が必須となります。当院では、24時間稼働するMRI/CT脳・脳血管診断装置、24時間対応可能なrt-PA治療、脳血管内治療と脳神経外科手術治療、そして15名余からなる脳卒中関連専門医（神経内科専門医、脳神経外科専門医、脳卒中専門医、脳神経血管内治療専門医、脳卒中外科手術技術指導医）が、効率的に脳卒中超急性期医療連携を行う体制が整っており、脳卒中患者さんの救命と後遺障害の低減、そしてリハビリテーション医師・理学療法士による神経機能回復治療を行うことができます。

脳卒中センターがスタートすれば県内唯一の施設となり、さらに迅速かつ効率的な高度脳卒中医療を提供できるものと考えています。





ご報告



会議の様子



井川病院長の挨拶

第10回 医療連携会議を開催しました

さいとう ようじ
地域医療連携センター センター長 齊藤 洋司

当センターでは、患者ニーズに応じた医療機関相互の連携強化を目的として、平成19年から医療連携会議を開催しています。出雲圏域内7病院、また、平成27年度からは雲南・大田圏域の公立3病院も加わっていただき、計11病院で医療連携会議を平成29年3月7日(火)に開催しました。

この会議には病院長及び連携部門の医療ソーシャルワーカー、看護師等と出雲市役所及び出雲保健所から出席いただき、活発な意見交換がなされました。

当院からは、井川病院長から医師派遣検討委員会の取組について、また、私から当センターのホームページの全面改定や退院支援体制の強化について説明しました。各病院からは現状とそこから見えてくる課題の報告をいただき、出雲市役所からは3,000人の市民を対象に実施された在宅医療等に関する意識調査の集計結果を紹介いただきました。また、出雲保健所からは、連携病院からの紹介、逆紹介の状況及び紹介患者さんの退院先の動向に関する問合せがあり、出席者から様々な意見が出されました。

当院では、本会議でいただきましたご意見・ご要望に応えるべく、今後、各病院との連携が更に深まるよう努めてまいります。

地域連携に関するお問合せ等ございましたら何なりとご連絡願います。

問合せ先 地域医療連携センター TEL:0853-20-2193



ご報告

男女共同参画講義を行いました

さの ちあき
地域医療支援学講座 准教授 佐野 千晶

これから臨床実習を行う医学科4年生対象に、男女共同参画講義を行いました。グループワークでは「妻の留学」というシナリオを用いて、秋田大学 蓮沼直子先生にご指導頂きました。いつもの授業とは様子が違い、当初は学生達がとまどっていましたが、蓮沼先生の軽快なトークによって、次第にグループで意見が飛び交い、議論が盛り上がりました。皆さんは、もしも家族に留学の話を持ちかけられたら、どのような選択をされますでしょうか。夫・妻それぞれのキャリア・健康状態、子供の成長・教育、父母の状況などにより選択は大きく変わり、正解はありません。グループワークの中で、お互いの意見を聞くことにより、医学生は自分が全く思いつかなかった意見が多く存在することに気づき驚いていました。どのような選択をするのかについて意見がまとまらないグループもありましたが、意見がまとまらないといった生活・キャリアに対する考え方の多様性を認めることが、本授業の目的の一つであるとのお言葉を、蓮沼先生より頂戴しました。



この講義では、男女にかかわらず、社会や家庭に参画する意識、キャリアについて考えるきっかけ作りとすることを目指しています。当院で活躍されている3名の先生方からも赤裸々な経歴についてお話し頂き、笑いあり、涙ありの講義となりました。

最後に、本講義は準備を含め、島根県医師会に全面的にご協力頂きました。紙面をかりて御礼申し上げます。





ご報告

奥出雲フェアを開催しました

栄養治療室 室長 ひらい じゅんこ
平井 順子

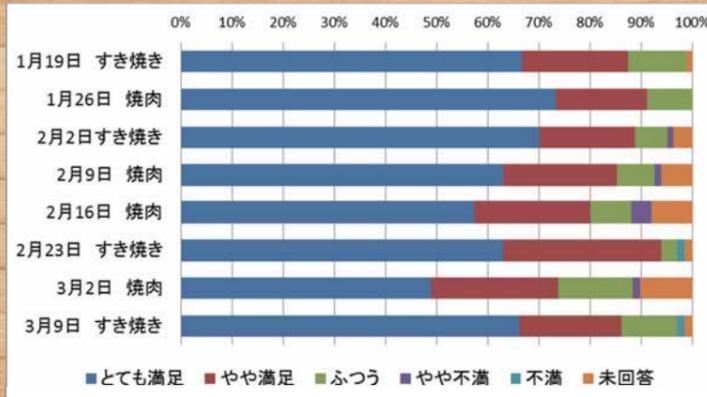
昨年、本学と奥出雲町が地域活性化と人材育成を目的として包括連携協定を締結したことをきっかけに、当院では、産業振興の面から、入院患者さんへ奥出雲町特産の食材を活用した病院食を提供する「奥出雲フェア」を開催しました。

開催期間は平成29年1月19日から平成29年3月9日とし、毎週木曜日の夕食時に行ない、延べ1533人の患者さんに奥出雲の土地が育んだおいしい食材「仁多米」、「奥出雲和牛」、「奥出雲シイタケ」を使った料理(焼き肉、すきやき風煮)を提供しました。

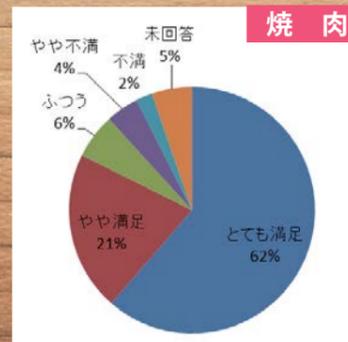
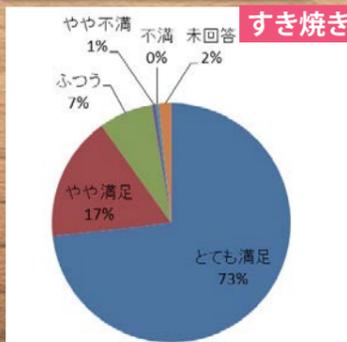
患者さんからは、美味しかったという、うれしい感想の他に、「退院してからもう一度食べにいたい」、「このような取り組みがあると地域の食にまた興味がわく」、「これからも地元の食材で元気に過ごしたい」など多くの感想もあり、「奥出雲フェア」をとらして奥出雲町が育む食材だけでなく、島根の食材への興味や関心をもっていただけたのではないかと感じています。また、日々の食事にも反映できるご意見も多数いただきました。これからも、患者さんに喜んでいただける食事を提供していけるよう楽しい企画を行なっていきたくと思っています。

アンケート結果

奥出雲フェアの満足度



それぞれの料理の満足度



ご報告

「ELNEC-Jコアカリキュラム 看護師教育プログラム」を開催しました

看護部 緩和ケアセンター看護師長 みよし ゆみこ
三吉 由美子

平成28年度より質の高いエンドオブライフケアの提供のために、「ELNEC-Jコアカリキュラム看護師教育プログラム」を開催いたしました。院内の看護職を対象に、がんのみならず慢性疾患や老いなど、全ての患者さん・ご家族へ質の高いエンドオブライフケアを提供できるように、知識・技術を習得することを目的とした研修です。患者さん・ご家族へ痛み・症状のマネジメント、倫理的問題などの包括的な学習ができるように、講義やロールプレイ形式の演習・グループワークを計画し、学びをすぐに実践に活かすことができる内容としました。受講生は5ヶ月の開催期間中に情報交換や相談の機会も得られ、お互いの繋がりが強くなりました。平成29年3月23日には11名の看護師が修了式をむかえることができ、井川病院長より修了証が授与されました。



今後はエンドオブライフケアの向上のために、受講生と力を合わせて1歩ずつ先進し、今年度は院外にも発信していきたいと考えています。





島大病院ニュース 2017年4月

お知らせ

Women's health care

女性ヘルスケア外来 を開設しました

産科婦人科 診療科長 担当医
きょう さとる 京 哲
おりで あき 折出 亜希

女性の一生は思春期、成熟期、更年期、高齢期に分かれますが、女性ホルモンや生活環境の影響によって心身に大きな変化が起こります。

これらの変化は必ずしも一つではなく、複数の症状が重なりあって、何となく体調が思わしくないといった不定愁訴となります。このような症状は人にも相談しにくく、医師に相談してもなかなか取り合ってもらえなかったのが実情です。

女性ヘルスケア外来とは、これら女性特有の症状や心身に關わる様々なことでお悩みの方々を対象とした外来です。従来の外来は病気を中心に診ていましたが、女性ヘルスケア外来は一生涯を通じて女性をトータルに診ることをモットーにし、様々な訴えに十分に耳を傾けながら女性に優しい外来を目指します。

- 月経前後の体調不調
- 頭痛、めまい、肩こり、疲れ、ほてり、動悸
- 気分の落ち込み、いらいら、不安
- 尿漏れ、排尿障害、骨盤内臓器脱
- 帯下の異常、外陰部の痛みやかゆみ
- 性の問題



などの症状でお悩みの方は、どうぞお気軽にご相談ください。

女性ヘルスケア外来 毎週水曜日 14時～17時

▶ 問い合わせ 婦人科外来 0853-20-2389
▶ 予 約 地域医療連携センター 0853-20-2061



島大病院ニュース 2017年4月

お知らせ

産後ケア外来 を開設しました

産科婦人科 診療科長 担当医
きょう さとる 京 哲
みなもと としこ 皆本 敏子

妊娠出産は女性にとって自分の体と向き合う時間でもあります。妊娠出産で初めて隠れていた内科疾患がわかることもあります。また妊娠を契機に心や精神の問題が表出することもあります。無事出産したからといって、これらを産後に放置してしまうと、体や心のバランスをくずしたり、潜んでいた疾患が深刻な状態に陥いることもあります。

このたび、産後ケア外来として、赤ちゃんだけでなく自分の体をメンテナンスしていただくための外来を開設しました。次のような患者さんはお気軽に受診ください。お産をきっかけに自分の体を優しくいたわりましょう！

- 産後の血圧・尿たんぱくケア
- 産後の血糖チェック
- 産後の貧血
- 産後の気分障害
- 気になる乳腺炎
- 帝王切開の創相談
- 尿漏れ・痔・性交痛
- 子宮下垂
- 職場復帰のための断乳
- 家族計画



その他相談しにくい悩みや不安などご相談ください

産後ケア外来 毎週火曜日 14時～16時

▶ 問い合わせ 婦人科外来 0853-20-2389
▶ 予 約 地域医療連携センター 0853-20-2061



平成29年4月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



平成29年4月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援（地域医療）担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>

